

番号	51	人見岳大神位		
所在地	伊万里市黒川町黒塩 千坂稲荷神社			
災害別	明治42年（1909）～ 地すべり			
目的別	伝 承	建立年	大正6年5月	
特記事項				



黒川町黒塩の千坂稲荷神社の右手前に小さな石碑がある。この地域の地すべりに関係するものであることが黒川町誌に記載されていた。なお、この地域は「黒塩地区地すべり防止区域」に指定されている。

「この稲荷様の横に二尺五寸の石碑があり。人見岳大神位を大正六年五月、お祀りして

ある。これは明治終期ごろからの人見岳を中心とする地すべりの大惨事にあい、途方にくれた村人達がせめてもの願いをこめて、地すべりの防止を神に祈願した碑である。」

「黒川町誌」(平成元年12月1日発行 P339～)

地すべりの状況について町誌は、「明治三十八年ごろより微動があり、明治四十二年、部落の上方の人見岳付近に大亀裂を生じ、次第にその地域は拡大し、上の方は陥没し、その圧力によって南西の平坦地は隆起し、宅地は埋没、山林は立木のまま陥没又は隆起し、田畑等の耕地も殆んど原型をとどめない大災害を蒙った。伊万里―波多津を結ぶ県道も、もとの位置より三〇〇^{メートル}も西の方に移動し、そのため改修すること四回に及んだ。

当時からの被害状況は、家屋倒壊二一戸、水田十二町歩、干拓(新田)七町歩、畑八町歩、山林原野一二〇町歩。このため、祖先伝来の地をあとに村外に移住する者十五戸・・・」と記している。(P336～)



国土地理院電子国土 Web

